

札幌市の交通に関する取組の紹介（平成25年度）

～「暮らし」・「活力」・「環境」に寄与する交通を目指して～

● 札幌市の将来交通に対する基本的な考え方（平成24年1月）

札幌市では、少子高齢化の急速な進展などの社会情勢の変化や低炭素社会の実現といった課題などを踏まえ、市民の日常生活や経済活動を交通面から支えるために、『**「暮らし」「活力」「環境」を重視する公共交通を軸とした交通体系の実現**』に向けて、交通に関する様々な取組を行っております。詳しくは、下記ホームページより、札幌市総合交通計画（平成24年1月策定）をご覧ください。

「ホームページ」 <http://www.city.sapporo.jp/sogokotsu/index/sogo.html>

● 平成25年度に行った取組（ソフト施策）

◇ 【公共交通全般】 ICカードの利便性向上

- ★ 「SAPICA」が、地下鉄に加えてバスや市電でも利用できるようになりました。（平成25年6月22日）

『SAPICA』で乗車できる札幌市内発着の公共交通

地下鉄：全線

路線バス：JRバス・じょうてつバス・北海道中央バス

市電：全線



- ★ 『SAPICA』利用可能エリアで、他の交通系ICカードが利用できるようになりました。（平成25年6月22日）
- ★ 『SAPICA』で地下鉄に加え、バスと市電の定期券サービスを開始しました。（平成26年2月20日）
- ★ 『福祉割引SAPICA』のサービスを開始しました。（平成26年2月20日）
- ※ 『SAPICAの利用方法』や『利用可能な交通系ICカードの種類』などの詳細は、下記のホームページで確認できます。
「ホームページ」 <http://www.city.sapporo.jp/st/josyaken/card.html>

◇ 【路線バス】 効率的で使いやすい地域公共交通ネットワークの構築

- ★ 元町・伏古本町・札幌地区で、地域住民・バス事業者・行政(札幌市)の3者による地域協議を行い、路線バスに係わる現状や課題、利便性向上に向けた取組について話し合いました。

○ 地域協議の開催概要

開催回数：3回（平成25年10月29日 / 平成25年11月28日 / 平成26年2月28日）

地域の参加者：のべ45名

○ 地域協議を踏まえて平成26年度に行った取組

- ・ 地下鉄駅や都心周辺施設への接続便数を増加。
- ・ 始発・終発時刻の見直し。
- ・ わかりやすい営業ダイヤに見直し。
- ・ 並行して運行する路線の運行間隔を改善。
- ・ 待合所のあるバス停で、大きな時刻表や路線図を掲出。

など

（地域協議の様子）



● 平成25年度に行った取組（ハード施策）

◇ 【徒歩】歩道バリアフリー化の推進

- ★ 札幌狸小路商店街の道路を『歩きやすい道路』に改良しました。（下の写真）
（道路名）市道南2・3条中通線 （事業区間）狸小路1～6丁目：約800m

「整備概要」

- ・ 道路の急勾配を改善。
（アーケード柱間の横断勾配を1%程度）
 - ・ 舗装面は、滑りづらい『御影石』。
（整備前はタイル）
 - ・ 『点字ブロック』を車道中央に敷設し、その両側に『黒・灰色の御影石』を設置して色のコントラストをつけることで弱視の方からも見やすくする。
 - ・ ハード対策のほか、24時間歩行者専用化の交通規制の実施や、商店街自らが車両通行ルールを制定するなど、ハード対策とソフト対策を合わせて行い、『歩きやすい快適な商店街』を実現。
- ※ 商店街振興組合、障がい者・高齢者団体、札幌市が協働して対策を検討。



◇ 【自転車】総合的な駐輪対策の推進

- ★ 地下鉄東西線菊水駅に駐輪場（収容台数約700台）を整備しました。
※ 右の写真は駐輪場の様子
- ★ 地下鉄東西線菊水駅と地下鉄南北線北24条駅周辺を『自転車等放置禁止区域』に指定しました。
（菊水駅：平成25年6月1日指定）
（北24条駅：平成25年7月1日指定）

- ※ 放置禁止区域は、下記のホームページで確認できます。

「ホームページ」 <http://www.city.sapporo.jp/kensetsu/dokan/jitensha/index.html>



◇ 【路面電車】低床車両導入

- ★ 路面電車の新型低床車両『ポラリス（愛称）』を2両製造しました。（下の写真）
（運行開始日：平成26年4月30日/平成26年5月14日）
※ 現在3両の新型低床車両が運行中。運行ダイヤは下記のホームページで確認できます。
「ホームページ」 <http://www.city.sapporo.jp/st/shiden/route-map/route-map.html>

「新型低床車両」の特徴

- ・ 車内の床には段差が無く、地面から床までの高さは従来よりも50cm程低くし、乗り降りをしやすくする。
- ・ 窓が大きくなり、車窓から広がる四季折々のまちの景色が楽しめる。
- ・ 乗車定員が従来より約2割アップ。
（既存車両 60人 ⇒ 新型車両 71人）

